

「専修学校フォーラム2011」

参加者アンケート結果

(平成23年2月22日、23日)

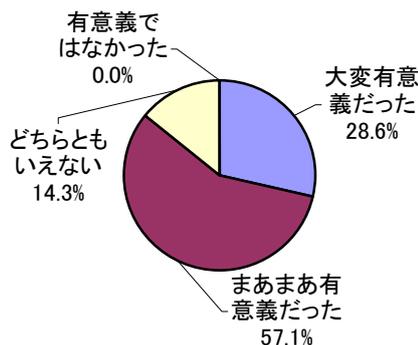
- 参加者数: 178名
- 回答者数: 18名
- 回答率: 10.1%

全国専門学校情報教育協会

問1. 全体会について

1『iPad等の新たなデジタルデバイスを活用したこれからの教育』

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	4	28.6%
まあまあ有意義だった	8	57.1%
どちらともいえない	2	14.3%
有意義ではなかった	0	0.0%
計	14	100.0%

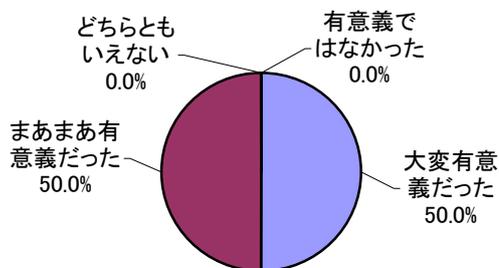


評価の理由:

- ・「iPad+教育コンテンツ=スクール」と考える、点は興味深かった。
- ・「学校を持ち運ぶ」ククールパツが実現すると学校に通う必要がなくなり通信教育の最先端になって行くように感じた。
- ・学技を持ち歩く、部分をもう少し詳しく頂きたかった。
- ・具体的な事例が聞けてためになりました。
- ・今後確実に導入されると思うから
- ・授業学習指導に今後iPadの活用を検討を深めていく事の必要性と導入する場合の問題点および解決手段の一部が見つかった。
- ・専門学校ならではの教育活動にiPadが持つ可能校が有効活用されている様子が伺えました。オリジナル教材が電子化できる関係ならば考えになります。
- ・大変、詳細かつ正直な内容で大いに参考になりました。弊校のCG科も同様の悩みを持っており、解決に向けての参考となりました。出来れば、デジタル教材の作成コストも具体的に伺いたかったと思います。
- ・大変刺激を聞きました。すでに取り組んでいらしゃる貴重な実例をOPENに紹介頂きとても参考になりました。ありがとうございます。
- ・直接的に今後の教育の形のアイデアを示してくれた。iPadが学技を持ち歩くものなら、校舎は教育ソールの一つに過ぎない？ と考えると面白い。
- ・内容の割に時間が長い
- ・内容はわかったが著作権などの問題(市販教科書)など厳しい部分があったりモバイルゆえの破損などの問題などクリアしなければならない事がまだまだあると感じる。

2『アマゾンクラウドというパラダイムシフト～学校運営にクラウドを活かす勘所～』

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	6	50.0%
まあまあ有意義だった	6	50.0%
どちらともいえない	0	0.0%
有意義ではなかった	0	0.0%
計	12	100.0%

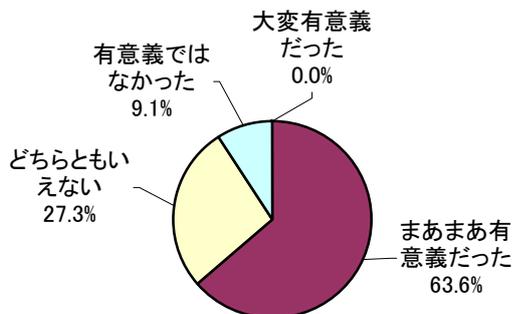


評価の理由:

- ・AWSの詳細がよくわかり良かった値段の仕組み、事例など
- ・ECZを使って何かをしたのという気持ちになりました。
- ・アマゾンクラウドトクラウドコンピューティングについて理解が深まった
また、利用することの効果を知る事ができた
- ・裏側の話が聞けよかったですまた時代の変化のスピードを感じる事ができた。
- ・現在、学内システムのクラウド化を進めており、本発表も大変参考になりました。
学校に特化した、APIの話をもっと説明を頂ければと思います。
- ・効率的なクラウドサーバー野使い方が理解できました。
- ・昨年学内研修でレクチャーしましたが、ネットで得た資料がほぼ同じだった。
- ・時代の大きな変化を成しました
- ・直接役に立つわけではないが、クラウドというものを大変分かりやすく説明していただいた。
- ・とても楽しくあつという間の一時間半でした。AmazonのAWSというサービスについて不勉強ではじめて知りました。
学生への教育としてだけではなく学内システムについてなども是非検討したいと思います。ありがとうございます。

3.『学校広報活動への新技術の活用』

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	0	0.0%
まあまあ有意義だった	7	63.6%
どちらともいえない	3	27.3%
有意義ではなかった	1	9.1%
計	11	100.0%

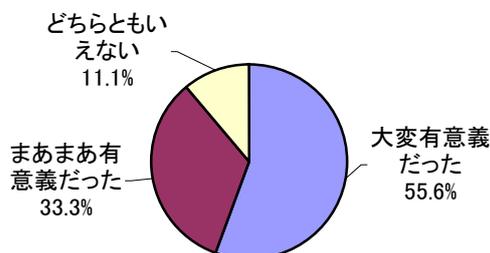


評価の理由:

- ・Sales forceを広報に活用することについて野有効性がわかりうよかった。
- ・学校の広報に即した内容でした。
- ・クラウド提供企業について知ることができた。
- ・資料があるので期待したのですがSalesforce関係がなく残念でした。あまり実感がわきませんでした。
- ・大変、機能が充実しているシステムだと感じましたが、特徴的な説明でしたので、もう少し実例でのメリット/デメリットが伺えればと思いました。
- ・直接の業務ではないので、学校に戻って担当に伝達させて頂きます
- ・TwitterやFacebookのような仕組みを保護者等と共有して言うなれば教育に「巻き込む」仕掛けが面白い。
- ・何が言いたのか論点がぶれていた。宣伝のみ？

16.パネルディスカッション『クラウド時代に必要とされる人材とこれからの職業教育』

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	5	55.6%
まあまあ有意義だった	3	33.3%
どちらともいえない	1	11.1%
計	9	100.0%



評価の理由:

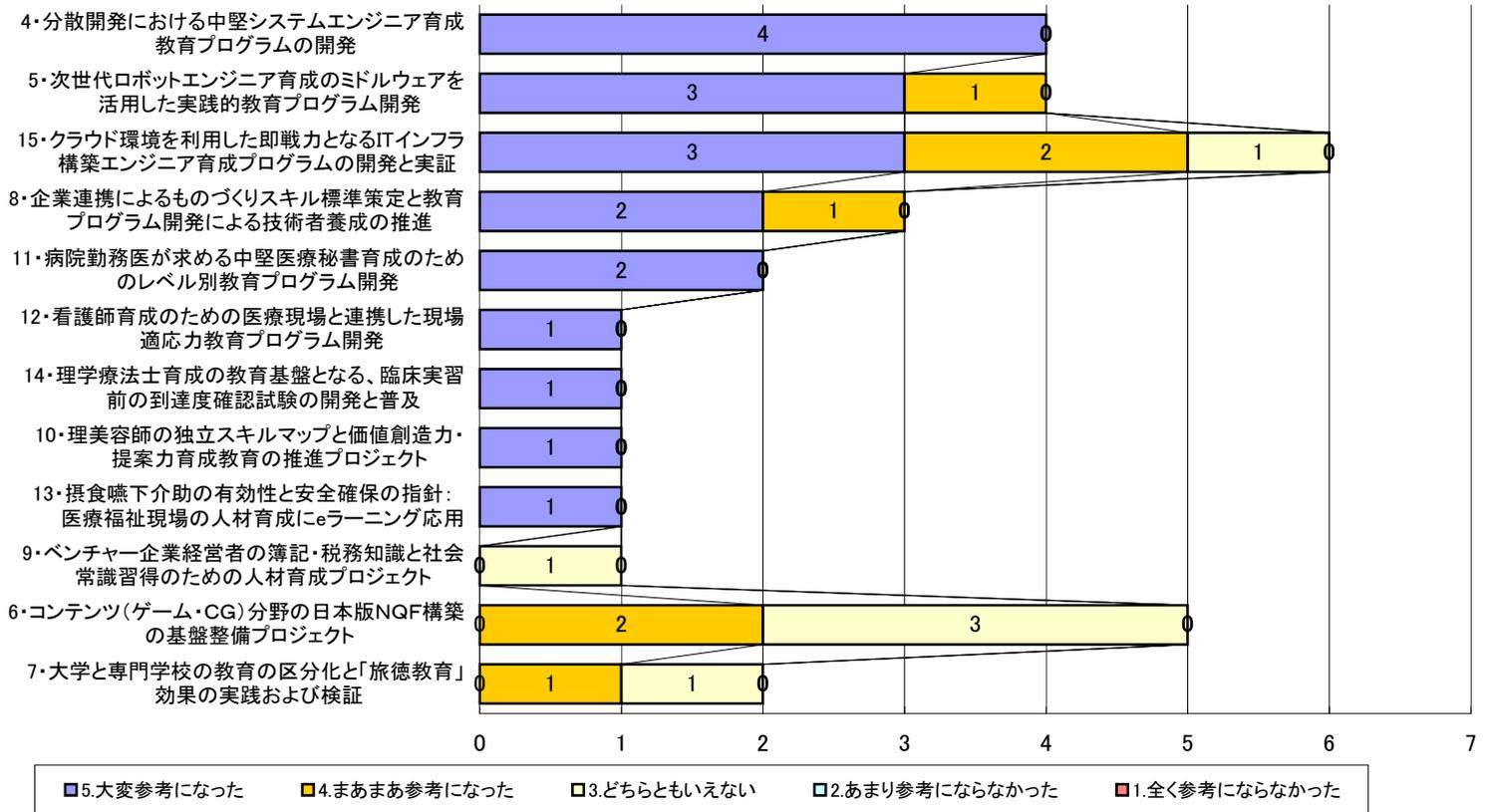
- ・今一つ各方の主張から方向性を見い出せないまま終わったように思います。
- ・クラウド時代に必要とされる人材はクラウドを有効に利用できる人間だという事がよくわかり大変有意義でした。
- ・クラウドに関する様々な考えをとり込める事ができた。IT人材として必要な基礎能力の重要性を再認識した。
- ・今後の教育に重要なキーワードが討議され、興味深かった。
- ・変化と可能性について知る事ができた。
- ・ほぼ「IT技術教育」の専門学校向けだったので…
普遍的な話も最後の方にはありましたが。

問2. 文部科学省プロジェクトの成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(「大変参考になった」をキーに並べ替え)



(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

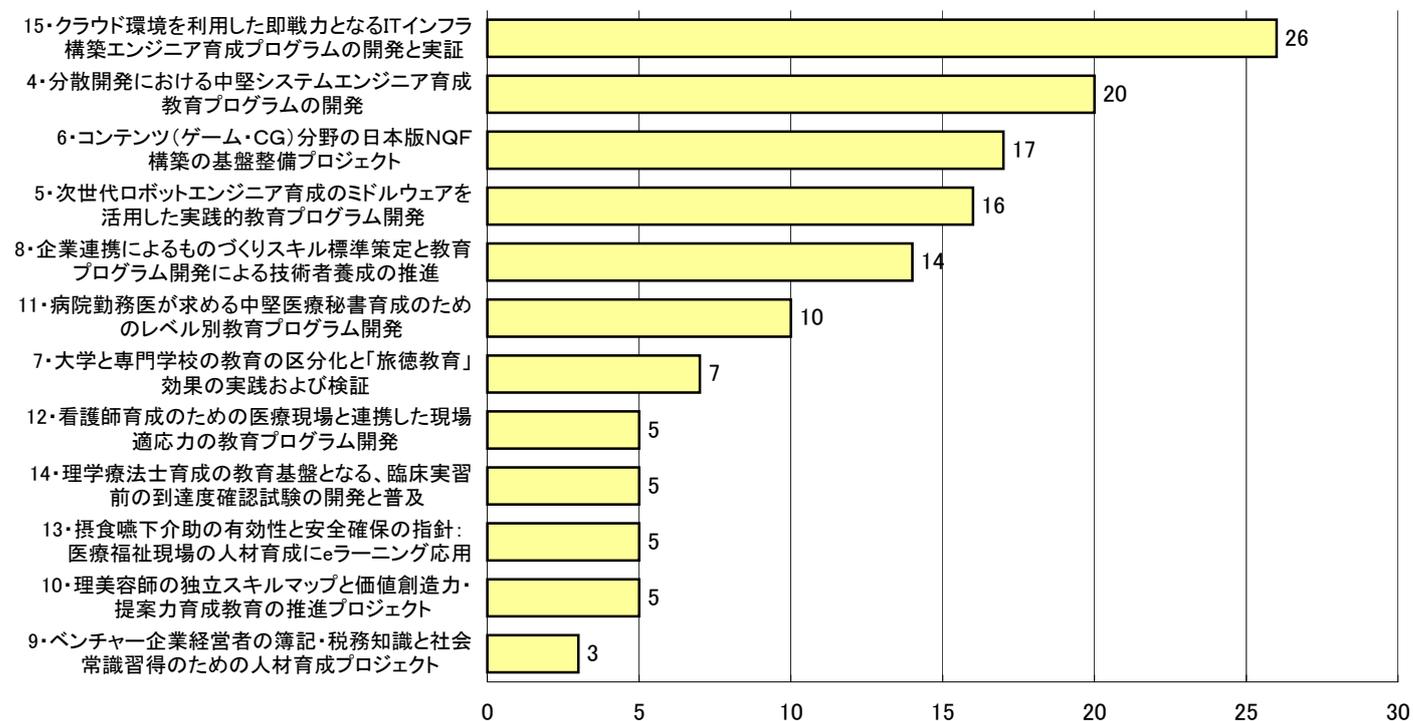
委託事業名	5. 大変参考になった	4. まあまあ参考になった	3. どちらともいえない	2. あまり参考にならなかった	1. 全く参考にならなかった
4・分散開発における中堅システムエンジニア育成教育プログラムの開発	4	0	0	0	0
5・次世代ロボットエンジニア育成のミドルウェアを活用した実践的教育プログラム開発	3	1	0	0	0
15・クラウド環境を利用した即戦力となるITインフラ構築エンジニア育成プログラムの開発と実証	3	2	1	0	0
8・企業連携によるものづくりスキル標準策定と教育プログラム開発による技術者養成の推進	2	1	0	0	0
11・病院勤務医が求める中堅医療秘書育成のためのレベル別教育プログラム開発	2	0	0	0	0
12・看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力教育プログラム開発	1	0	0	0	0
14・理学療法士育成の教育基盤となる、臨床実習前の到達度確認試験の開発と普及	1	0	0	0	0
10・理美容師の独立スキルマップと価値創造力・提案力育成教育の推進プロジェクト	1	0	0	0	0
13・摂食嚥下介助の有効性と安全確保の指針：医療福祉現場の人材育成にeラーニング応用	1	0	0	0	0
9・ベンチャー企業経営者の簿記・税務知識と社会常識習得のための人材育成プロジェクト	0	0	1	0	0
6・コンテンツ(ゲーム・CG)分野の日本版NQF構築の基盤整備プロジェクト	0	2	3	0	0
7・大学と専門学校の教育の区分化と「旅徳教育」効果の実践および検証	0	1	1	0	0

問2. 文部科学省プロジェクト成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(順位をポイント化した総合順位)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(順位をポイント化した総合順位)



(順位をポイント化した総合順位)

※ポイントとは→5.大変参考になった=5 4.まあまあ参考になった=4 3.どちらともいえない=3
2.あまり参考にならなかった=2 1.全く参考にならなかった=1

委託事業名	5.大変参考になった	4.まあまあ参考になった	3.どちらともいえない	2.あまり参考にならなかった	1.全く参考にならなかった	総合ポイント	総合順位
	(5p)	(4p)	(3p)	(2p)	(1p)		
15・クラウド環境を利用した即戦力となるITインフラ構築エンジニア育成プログラムの開発と実証	15	8	3	0	0	26	1
4・分散開発における中堅システムエンジニア育成教育プログラムの開発	20	0	0	0	0	20	2
6・コンテンツ(ゲーム・CG)分野の日本版NQF構築の基盤整備プロジェクト	0	8	9	0	0	17	3
5・次世代ロボットエンジニア育成のミドルウェアを活用した実践的教育プログラム開発	15	1	0	0	0	16	4
8・企業連携によるものづくりスキル標準策定と教育プログラム開発による技術者養成の推進	10	4	0	0	0	14	5
11・病院勤務医が求める中堅医療秘書育成のためのレベル別教育プログラム開発	10	0	0	0	0	10	6
7・大学と専門学校の教育の区分化と「旅徳教育」効果の実践および検証	0	4	3	0	0	7	7
12・看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力の教育プログラム開発	5	0	0	0	0	5	8
14・理学療法士育成の教育基盤となる、臨床実習前の到達度確認試験の開発と普及	5	0	0	0	0	5	8
13・摂食嚥下介助の有効性と安全確保の指針：医療福祉現場の人材育成にeラーニング応用	5	0	0	0	0	5	8
10・理美容師の独立スキルマップと価値創造力・提案力育成教育の推進プロジェクト	5	0	0	0	0	5	8
9・ベンチャー企業経営者の簿記・税務知識と社会常識習得のための人材育成プロジェクト	0	0	3	0	0	3	9

②参考になった、印象が強かった理由:

■分散開発における中堅システムエンジニア育成教育プログラムの開発

- ・2年生～4年生また各学校と物理的に離れた環境で実施できる事。高度専門士を持つすべての学校との協力等。
- ・4年生と2年生のカリキュラム、シラバスをうまく連けいさせる事は非常に参考になった
- ・当校でもSEの教育に対してどのように行うべきか思案しているため

■次世代ロボットエンジニア育成のミドルウェアを活用した実践的教育プログラム開発

- ・完成度が高く教材の事業への活用も可能
- ・総合開発の見せ方(UML等の活用)
- ・弊社でも制御系授業の取組みを検討中であり、目に見えるロボットのテーマは参考になりました。

■コンテンツ(ゲーム・CG)分野の日本版NQF構築の基盤整備プロジェクト

- ・企業ニーズの分析の報告が貴重な情報となりました。
- ・企業へのヒアリング調査の結果が特に参考になった。

■大学と専門学校の教育の区分化と「旅徳教育」効果の実践および検証

- ・日本への外国人観光客の激増時代に対応する人材の教育の必要性
- ・弊社でも、3週間のミニ留学を入学者全員に実施しており、ジコタンのプログラムが参考になりました。

■企業連携によるものづくりスキル標準策定と教育プログラム開発による技術者養成の推進

- ・現在、シラバス作成に注力を傾けていたのですが、全体像を景観する必要性を実感しました。
- ・広い分野でありスキル標準カリキュラムの整備のむずかしさと必要性を改めて感じた。ぜひ完成させてほしい
- ・ものづくり分野のスキルマップ作りに苦労しているから。

■理美容師の独立スキルマップと価値創造力・提案力育成教育の推進プロジェクト

- ・NVQ、教材、内容ともクオリティが高く大変参考になった。

■病院勤務医が求める中堅医療秘書育成のためのレベル別教育プログラム開発

- ・医療事務作業補助者の事務で専門学校で教える際、その事務のイメージを学校に伝える事が難しいという意見が教員から出ていた。今回のDVDはそれを解決する一つのアイテムになると感じた。
- ・具体的な教材ビデオが観られたので。

■看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力の教育プログラム開発

- ・コミュニケーション力というあいまいなものを綿密に整理してあり驚いた。

■摂食嚥下介助の有効性と安全確保の指針:医療福祉現場の人材育成にeラーニング応用

- ・具体的な教材ビデオが見られたので。

■理学療法士育成の教育基盤となる、臨床実習前の到達度確認試験の開発と普及

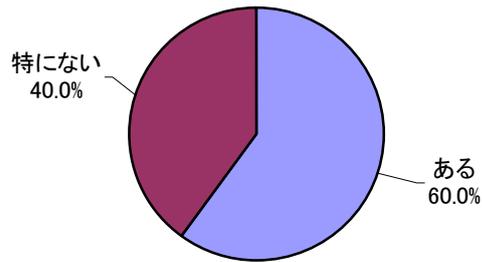
- ・臨床実習という「難題」に対し、事前にどう対策を立てるかという具体例が見れたので。

■クラウド環境を利用した即戦力となるITインフラ構築エンジニア育成プログラムの開発と実証

- ・IT企業においてもクラウド時代の人材育成は重要なテーマとなっています連携していくべき事が多いと感じました。
- ・クラウドの利用が主となる時代に必要な人材育成の必要性。どのような人材を育成すべきかがわかり、参考になった。

問3. 今後、文部科学省プロジェクト等で取り組みたい事業やテーマ

	区分	回答数	%
1	ある	6	60.0%
2	特にない	4	40.0%
	計	10	100.0%



具体的な内容:

- ・学校間の人材活用（連携）。学校内での教員の利用(活用)のあり方。
- ・グローバル化に向けて 日本の専門学校として
- ・再来年に期待
- ・実習技術と利用した「自分」の確認作業と改善(グループ実習作業を通した社会的基礎力の向上)
- ・専門学校の標準化(規格化?)教材(デジタル教材等)の共有化等の検討は無理でしょうか
- ・単体テスト 1-2年生向け。テスト プログラミング 3年生Ounitやテストカバレッジ等。

問5. 課題となっている事項や悩み、希望する研修テーマなど

- ・「自己評価・自己点検」の実施についてどのように取り組むか(人的負荷)
- ・金属加工やプラスチック成形のような「実技」の習得をITで支援することはできないでしょうか？
(当校は義肢装具士を養成しています)手作業のもの作りはITと相性は良くなさそうですが…。
- ・高度専門士の細分化・全員がSE? 学力の差
- ・製菓・製パンに関する研修を行っていただきたい。
- ・世の中の進歩に追従した教育の出来る若い職員(教員)の育成。
- ・読み、書き、計算等の基礎学力向上。傾聴力向上。キャリアパスの可視化。